

## 令和6年度 第1回 学校運営協議会（議事録）

I 日 時 令和6年6月8日（土） 午前10時00分から午後0時まで

II 場 所 静岡県立浜松湖東高等学校 小会議室

III 出席者（委員、敬称略）

新井立夫（文教大学教授）、神間智博（本校同窓生）

鈴木恵子（認定NPO法人理事長）、松浦洋一郎（本校後援会長）

村松俊司（神久呂協働センター所長）、山口権治（第一学院高等学校顧問）

本校職員

渥美真人（校長）、猿田かおる（副校長）、諸井康恵（事務長）

V 内 容

### 1 校長挨拶

今年度、皆様の力を借りながらやっていきたいのでよろしくお願いします。

### 2 委員自己紹介

紹介後、校長から任命状が授与された。

### 3 本校文化祭「黎明祭」自由見学（30分程度）

### 4 学校運営協議会について（副校長から説明）

(1) 静岡県教育委員会規則第1号（P.1）

(2) 静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する要綱（P.5）

(3) 静岡県立浜松湖東高等学校における学校運営協議会の設置等に関する要項（P.8）

### 5 会長・副会長の選出

会 長 新井立夫氏

副会長 山口権治氏

互選により、両名が選出された。

### 6 議事（進行：会長）

委員6人の出席を確認。

#### (1) 令和5年度学校評価の報告

・学校経営報告書（自己評価）

・学校関係者評価実施報告書（まとめ）

（校長から説明）

・自己評価については、令和5年度第4回学校運営協議会の時に説明しているので、自己評価の成果と課題を御覧ください。

・まとめについては、一昨年度と比べて高い評価となっている。例年になくAの数が多かった。取組目標「全員が積極的に関り、自主性や社会性を育む。」については、自己評価BをA評価にさせていただいた。

・成果目標「生活面（服装・頭髪等）はしっかりしている」と答える生徒80%以上は、達成状況が高かったので、本年度の目標数値を上げている。

（委員より）

・評価が高く出ているとのことであるが、きちんとやっていたら評価が出るのは当たり前である。

・高校生以上は、小中学校のように不登校の支援がないので不登校が増えている。湖東高校の中退の人数はどのくらいあるのか教えてほしい。

（校長）昨年度は、1～3年生合計で9人くらいである。湖東高校は少ない方だと思う。

・適応障害が増えている。その対応をどのようにしていくかが課題となっている。

(2) 令和6年度グランドデザイン・学校経営計画の検討

- ・グランドデザイン
- ・学校経営計画

(校長から説明)

- ・スクール・ミッションは紙面のとおり。
  - ・今年度、総合的な探究に力を入れていく。それを内外にどう伝えていけるのかということで、探究プロジェクトの組織を一新した。校内研修では専門家国立教育政策研究所の白水氏を招いて研修を行っている。
  - ・本年度より取組目標ウについて追加している。働き方改革に関連するものであるが、完全退勤時刻は文化祭前なので今のところ守られていない。6月23日に吹奏楽部の定期演奏会もあるので、一段落したところで徹底していきたい。
  - ・『オモロイ学校～やりたいことがやれる学校～』を御覧ください。  
教員には第1回職員会議で提示した。アイデアを持ち…の部分については、全生徒に始業式で伝えた。オモロイ学校とは、やりたいことがやれる学校 各々がアイデアを口に出し仲間を作り、まずはやってみる、だめならやめればよいというような感覚。
  - ①重い空気感を感じていたため、今年目標はまずこの雰囲気を変えるところから始めたい。先生が楽しければ生徒にも反映すると思う。
  - ②安全性安心感の面では、特別支援コーディネーターを担任を外して専門職とした。面倒見の良い学校を目指す。さっそく1年生全員を対象に1分間カウンセリングを実施した。また、黙食ルームを試行でやってみようとしている。
  - ③不祥事の取組としては、組織を一新した。やりたいことをやれる学校を目指す。良い方向に向かうと良いと思っている。職員室の雰囲気は学校を映す鏡である。生徒も良く見ている。
  - ④教育課程の見直しをする。総合型をもう少し重視すべきである。そのためにベースとなる教育課程を見直したい。いったんゼロベースにして2年間くらいで完成させる。今年度はたたき台を作る。
  - ⑤探究プロジェクト事業の内外への周知については、今年度、組織を探究プロジェクト委員会の1つにした。内側に対する広報をして、その仕組みを作り、外側に出していきたい。
  - ⑥その他として、校内研修の充実を検討している。また、SNSの広報活動では、毎日Instagramを更新していて、フォロワー数1,000を超えた。
- ・グランドデザインは、教育DX課長のアイデアで変えた。

(委員より)

- ・グランドデザインの分析・批判的思考力は良い。イノベーションを起こすことが大事。探究は問いがないと進まない。当たり前だと思って受け入れていると探究に近づけない。
- ・とにかく子どもたちをこうしようというものが多い中で、先生たちが変われば生徒が変わるという発想でやられているのは良い。先生も仲間とかチームが大切。生徒は明るい。変わる可能性があると感じている。
- ・黙食ルームを設けるといふことであるが多様性に寄り添うこと大事。
- ・Instagramを見ているが、タイミングが良い。ぜひ続けてやってほしい。
- ・湖東高校の卒業生としては、昔にこだわることはなく、独自路線をいってほしい。
- ・期待している。子どもたちが3年間有意義な生活を送られれば社会へ出てからも高校の時の経験が活きるのも良い。
- ・1回ぶち壊すことはエネルギーが必要なことなので、頑張ってやってほしい。
- ・生徒数が減少していく中、どうやって特色を出していくかということで、先生方のやりたいことをやれる学校“オモロイ学校”がキャッチコピーの形で湖東高校のいい方向性を出していけるのではないかと。

- ・先生方がワクワク感を持って授業をやらないと子どもたちに伝わらない。できないことを乗り越えたとおもしろいというところに授業展開してほしい。
- ・アクティブラーニング型の授業は、発言しないと悪いことになってしまうようなところがあるが、一步下がって考えたい子や人の意見を聞きながら考えたい子もいるので、そういう子も教室の中に居られるような授業展開も必要ではないか。
- ・何かをやろうとすると正義が一直線に向かってしまう世の中である。ゼロか1かを教えるのは正しい教え方なのか。
- ・一人でいることも大事だが、集団で一緒に食べたい気持ちもある。折り合いをつけながら集団に行けるような支援も必要。
- ・漢字でいうと例えば公平と平等があるが、何を持って公平、平等とするのか折り合いをつけながら先生方の共通認識を図る必要がある。その上で自由にやれると良い。
- ・岐阜県の未来工業という会社は、オモロイ学校に相通ずるものがある。報連相が禁止の会社で、社員が自立して自分で考えて自分たちでやっていく会社である。
- ・小中学校の教員が着任後1年で辞めていくケースが多い。職員室の空気が相談できる環境下でない、孤独感から辞めてしまう。職員室の風通しが良いとワクワク感があって授業ができるようになる。
- ・義務教育の職員室の中のカウンセリング機能が欠けている。教員のピアサポートが必要。
- ・心理的安全性ないとアクティブラーニングできない。
- ・心理的安全性が高まるようなことを併用して、個別も大事だけど社会性を付けなければならない。
- ・ボッチかゼロかではなく社会性を高めていくことが大切。居場所を作った上で社会につなげていく。安全、安心、快適さを求める学校の在り方が理想。
- ・働き方改革の退勤時刻については、1年間同じと決めるのではなく、緊急時（行事がある時や試合前）と平常時の使い分けができると先生方もやりやすい。
- ・学校行事は大事。本質がわかってやっている。同僚性は、同じ方向を向いて同じことをやる。やり遂げる力（GRIT）、成長につながる。
- ・探究については、みんな行儀が良い。総合的な学習の時間と変わらない。一方通行の調べ学習と発表になっている。いろいろな多角的な意見が出てくると良い。本当の意味の探究なのか、調べ学習で終わらないで、他校の生徒が出していないような答え（納得解や自己解）で報告できると湖東高校の差別化ができるのではないか。

《全員一致で「令和6年度学校経営方針」を承認》

#### 7 今年度の日程について（副校長から）

第2回は授業公開日である11月2日（土）10:00～12:00に実施したい。

第3回は2月、第4回を3月に開催予定。